

ゴルフで地域の健康増進

八学大など共同研究

未経験者ら対象

数値改善を検証

ゴルフを通じて地域住民の健康増進を図ろうと、八戸市の八戸学院大学(小林眞学長)は太陽生命少子高齢社会研究所(本社東京、安田誠利社長)、日本ゴルフ協会と共同研究を実施する。45歳以上の未経験者と初心者を対象に同協会の「JGA WAG スクール」を活用した健康増進プログラムを提供。身体的・認知的な健康指標の変化を分析し、中高年者や高齢者の健康寿命の延伸につなげる。

プログラムは8～10月の

毎週金曜日の計10回。この

うち2～9回は同協会のスクールとして、階上町の八戸カントリークラブでレッス

スを行う。初回と最終回は同大学を会場に、骨密度や握力、認知機能検査など

「八学型健診推進プロジェクト」に基づいた健康測定

を行い、ゴルフを通じて数値がどれくらい改善された

かを検証する。研究結果は



会見後、手を取り合う八戸学院大の小林学長(左二番目)ら。11日午後、階上町の八戸カントリークラブ

論文で発表する予定。

11日の会見には小林学長

と安田社長のほか、日本ゴルフ協会の中島和也・ゴルフ

フと健康部会長、八戸カントリークラブの正部長淳司

社長らが出席。小林学長は

「青森県は短命県返上が大

(棟方好華)

きなテーマ。良い結果が出ること期待しながら、本学が地域に貢献できる一つの事業として取り組みを進めていきたい」と述べた。

HPで近日中に詳細を掲載する。申し込みや問い合わせは同センター(電話0178-252789、平日午前9時～午後5時)へ。